

令和3年1月12日
 四国電力株式会社

伊方発電所における通報連絡事象（令和2年12月分）および 通報連絡事象に係る報告書の提出について

- 令和2年12月に当社から愛媛県および伊方町ほか関係自治体に通報連絡した事象は以下の1件です。本事象は、法律に基づく報告事象に該当するものではなく、また、環境への放射能の影響もありませんでした。

事 象	発生日	発表日	県の公表区分
1. 伊方発電所における協力会社作業員の負傷について	12月17日	—	C

- 以下の通報連絡事象について、その後の調査結果を踏まえた原因と対策をとりまとめ、愛媛県および伊方町ほか関係自治体に報告書を提出いたしました。

事 象	発生日	発表日	県の公表区分
1. 伊方発電所2号機 原子炉補助建家消火配管からの水漏れについて	6月15日	6月16日	B
2. 伊方発電所3号機 セメント固化装置補助蒸気供給配管からの水漏れについて	7月13日	7月13日	B

県の公表区分 A：即公表
 B：48時間以内に公表
 C：翌月10日に公表

(別紙1) 伊方発電所における通報連絡事象の概要（令和2年12月分）

(別紙2) 伊方発電所における通報連絡事象の報告書概要

以 上

伊方発電所における通報連絡事象の概要（令和2年12月分）

1. 伊方発電所における協力会社作業員の負傷について

伊方発電所構内（屋外）において、令和2年12月17日、協力会社作業員が右手小指を負傷したため、15時22分、協力会社の社有車で病院に搬送することとしました。診察の結果、「右V指打撲・挫傷」（右手小指の打撲・挫傷）と診断されました。なお、当該作業員の被ばく、汚染はありませんでした。

以 上

伊方発電所における通報連絡事象の報告書概要

1. 伊方発電所 2号機 原子炉補助建家消火配管からの水漏れについて

○事 象

伊方発電所 2号機の原子炉補助建家 5階（管理区域内）において、令和 2年 6月 15日 16時頃、天井付近の消火配管から水が漏れていることを保修員が確認しました。

このため、当該箇所を隔離し、配管内の残水を回収することにより、18時 16分に漏えいは停止しました。

漏れた水の量は約 0.4リットル（推定）であり、放射能は検出されておらず、漏れた水は全量回収しました。

当該箇所に微小な穴を確認したことから補修材により補修した後、消火配管に通水し、6月 16日 14時 38分、漏えいがないことを確認しました。

その後、当該箇所近傍の配管を取り替えしたうえで、消火配管に通水して漏えいがないことを確認し、8月 3日 14時 45分、通常状態に復旧しました。

本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありませんでした。

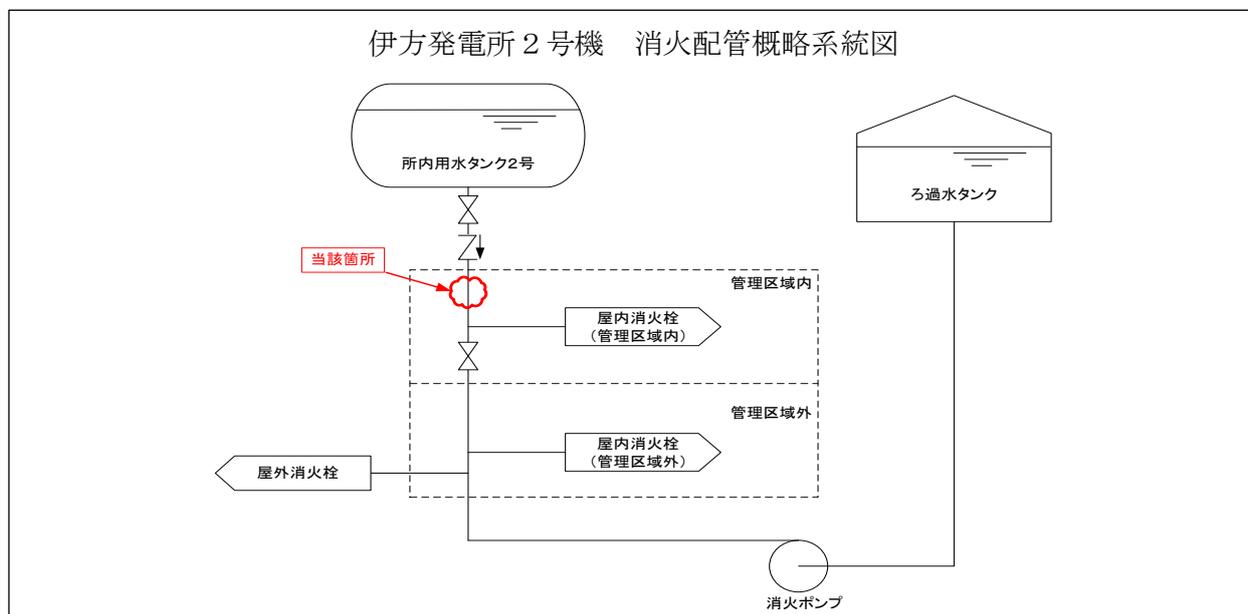
○原 因

調査の結果、当該配管内表面全体に錆が発生しており、除去したところ溶接部近傍は外表面まで貫通していました。

このことから、当該漏えい箇所近傍の所内用水タンクの水に含まれる酸素の影響により配管が酸化し、貫通に至るまで腐食が進行したものと推定しました。

○対 策

- ・当該配管を新品に取り替えました。
- ・所内用水タンクの水に含まれる酸素の影響を低減するため、所内用水タンク 2号の出口弁を常時「閉」運用としました。
- ・今後、腐食が進行している所内用水タンク近傍の消火配管を取り替えるとともに、所内用水タンクと消火系統の切り離しを実施します。
なお、消火活動時には、消火ポンプから水を供給することから所内用水タンクを切り離しても消火活動に影響はありません。
- ・類似箇所として、所内用水タンク 1号の出口弁を「閉」運用としました。
また、今後、所内用水タンク 1号近傍の消火配管の取り替えを実施します。



2. 伊方発電所3号機 セメント固化装置補助蒸気供給配管からの水漏れについて

○事 象

伊方発電所3号機は第15回定期事業者検査中のところ、令和2年7月13日10時30分頃、原子炉補助建屋2階（管理区域内）において、セメント固化装置[※]へ補助蒸気を供給している配管の保温材から水が滴下していることを運転員が発見しました。

当該箇所の調査を実施したところ、配管に微小な穴があることを保修員が確認しました。

漏れた水の量は約0.25リットル（推定）であり、放射能は検出されませんでした。また、漏れた水は全量回収しました。

その後、当該配管を取り替えたうえで、補助蒸気を通気して漏えいがないことを確認し、7月28日10時20分、通常状態に復旧しました。

本事象によるプラントへの影響および周辺環境への放射能の影響はありませんでした。

※ 機器点検時の排水や洗濯排水等、管理区域内で発生した液体廃棄物を濃縮し、セメントと混ぜ、ドラム缶に詰めて固化する施設

○原 因

当該ラインでは、補助蒸気を供給する際に制御弁により補助蒸気量が絞られることで弁下流の圧力・温度が低下し、凝縮水が発生します。また、制御弁の下流が曲げ管であるため、補助蒸気の流れに乱れが生じ、これらが相まって配管内表面が減肉し貫通に至ったものと推定しました。

○対 策

- ・当該配管について、耐食性に優れたステンレス製配管に取り替えを実施しました。
- ・類似箇所である付属設備の補助蒸気配管（制御弁下流の配管曲がり部）について、ステンレス製配管に取り替えを実施します。

